

平成23年(2011年)東日本大震災

被災された皆様へ謹んでお見舞い申し上げます

3月11日に発生しました東日本大震災により被害を受けられました
皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。
皆さまの安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

**がんばろう
日本!!**

弊社では震災により就職が困難な状態になられた被災者の方々を対象に、特別採用枠を設けました。また、社内外でも積極的に募金を呼び掛け、日本赤十字社を通じて義援金として寄付させていただきます。



LMT LAB DAY CHICAGO 2011

LMTラボデイ2011 レポート reporter：北詰浩久 補綴第一課主任

2011年2月25、26日に行われたシカゴLMTラボデーに本社を代表して視察させていただいた事は私にとって大変貴重な経験となりました。下記にレポートをまとめさせていただきます。

2月25日 朝8時30分、シカゴオヘア空港に到着し、ハワイ支社の梶田マネージャー、尾形君と合流。その日はコロンビア大学内の現代写真展へ行き、夕方からシカゴの街を一望できる高層ビルの最上階のバーに行き、夜景を堪能しました。築何十年のボロボロのビルと近代的な高層建築のビルが渾然一体となっていて大変興味深いものでした。

2月26日 LMTラボデー視察当日。朝より入場し、まずは約200社程あるメーカーの各展示ブースを見て回りました。世界初お披露目という目玉商品はありませんが、CAD/CAMを中心とした機材や材料が多く目立ちました。金属会社や技工用機、咬合器、変わった形のスチーマー、サンドブラスター、エポキシ型の模型材料やバーポイント類など、初めて見る物も沢山ありました。

そんな中、私が個人的に注目したのは、ジルコニアのアプリコットクラウンです。2種類のサンプルがあり、一つは研磨で仕上げたパール色のもの。もう一つはステインされたものでした。咬合面の溝もきっちり入っていたので、どうやったのか聞いてみると半晶結状態でしっかり溝も形成しておいてから、シンタリングして完成させている様です。TANAKAデンタルの田中先生も外国人にZrのカラーリング材の説明を熱心にされていました。その他、松風ではZrのプレス用インゴット、ノーベルはVITA、ノリタケのZr陶材、GCはイニシャルを展示していました。2階では大手メーカーのレクチャー会場となっており、イボクラ社のe-maxが目立っていました。4名程でe-maxのレクチャーをしながら別室でプレスなどのハンズオンをしていました。デンツプライは陶材の築盛のハンズオン、ノーベル、ストローマンはCAD/CAM中心の展示でした。私はその中で、ノリタケのセラビアンZrの築盛を見てきました。カスプデンタルのトクトミさんがインターナルステインの築盛をやっていました。Zrのコーピングにボディーを盛ってカットバック、1回焼成した後、切縁中央あたりにイエロー系、両隣接隅角部にアクアブルー、その上にT1をかぶせる焼成方法でした。

今回の視察で一番感じた事は、技術を要する陶材築盛よりも、e-maxなどのプレス、又はCAMによるZrフルクラウンなどで作業を簡単にしていきつつ、陶材の破折も防いで強度をUPして行こうという考えが見られるという点です。これが今後、日本の歯科業界にどう浸透して行くかはわかりませんが、その中でもe-maxはこれからも受注が増えていくのではないだろうか強く感じました。

最後にこの様な素晴らしい体験をさせて頂いた事に大変感謝しております。これを今後の自分の技工人生に役立てて行きたいと思っております。ありがとうございました。

セミナーレポート reporter：遠藤隆雄 営業課課長

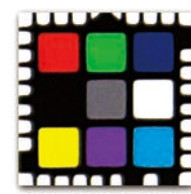
NobelProceraとNobelGuide成功へのキーポイント

2011年2月27日

ノーベルバイオケア主催によるメーカー主体の研修会ですが、インプラント技工を中心にオールセラミックに関する内容でした。特にプロセラクラウンのPointとして、まず透過性と支台の関係を考慮してコーピングの選択をすることの重要性和、Fitに関してはほぼ印象と形成によると説明されていました。カスタムアバットメントのところでは必ず縁下をHight Polishする事と、有効的な研磨材の紹介も頂きました。PIBでは、オーバーラッピングを避ける、ガムはアクリリックレジンで製作するとの事でした。これはブラークの沈着が他の材料より付きにくいとの結果によりアクリリックレジンを選択している様です。粘膜はShallow Ovateだそうです。これは志田先生がネーミングしたそうです。何となくイメージはつかめると思います。以上、レポートとなりました。

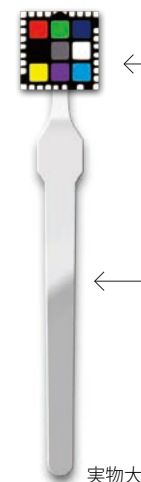


1枚目：右から梶田、北詰、尾形。2枚目：会場の様子。3枚目：技工機、作業しやすい様工夫されている。4枚目：ハンズオンの様子。真剣に聞き入っている。



Shade matching system

カラーチャートと一緒に撮影する事で歯の色調を正確に再現し、高品質な技工物をご提供します。



この箇所を患者さんの歯牙と一緒に撮影してください。1mm間隔の目盛りにより、大きさも把握出来ます。



VITAシェードガイドに挿して対応シェードガイドと並べて撮影できます。

チェアサイドで患者さんの口腔内を撮影しても、周囲の照明の明るさ、色合い、フラッシュの強度、更にはカメラの性能により元の色調は様々な方向にズれてしまいます。そして、撮影画像をモニターで表示したとしても、そのモニター自体も正確な色を再現する物ではありません。そういった環境で患者さんの歯の色調、状態を歯科技工士に伝える事は至難の技とも言えます。そこで弊社では、厳密な色調再現を要する現場で使用される高精度モニターを導入、更には色調のずれを補正する為、精密な色パターンが印刷されたカラーチャートを導入致しました。このカラーチャートを被写体と一緒に撮影し、高精度モニター上にて色調補正を行う事で、患者さんの歯の色彩をほぼ再現する事が可能となります。

TEL 0276-20-5670
カラーチャートは無料でお渡しします

0.2mmの超微細溶接

レーザー溶接により微細な作業を実現

熱に弱く変形変色の恐れがあるポーセレンやレジンすぐそばの金属部など修理や加工が難しい箇所でも、より正確に作業する事が可能となりました。対象箇所からわずか1mmの距離にあるレジン等にも影響を及ぼしません。増歯が必要となった義歯にも大変有効であり、義歯の可能性が大幅にアップしました。今まで再設計を余儀なくされた破損ケース、チェアサイドで患者さんにお断りしていたケースも、弊社にご相談ください。

